

タブレットを活用した家庭学習を進める中で、家庭学習の習慣化や主体的な学習につなげる取組

～菊陽町立菊陽中部小学校～

児童がタブレット端末を自宅に持ち帰り、自ら課題に取り組んだり、ドリルの宿題を行ったりすることで、「家庭学習の習慣化」を目指しています。

① ミニトマトのせいちょうのきろく	
家にもちかえたミニトマトのようすをしゃしんをとってきろくしましょう。カメラはスカイメニューのカメラをつかいましょう。	
② みの回りからかさのたんいを見つけよう	
算数の「かさ」の学しゅうで、L・dL・mLなどのかさのたんいを学しゅうしました。みの回りからかさのたんいが書かれているものをさがして、スカイメニューのカメラでしゃしんをとりましょう。	
③ ドリル「きわめる！なつ」のふろくコンテンツ	
スカイメニューの「QRコードリーダー」をつかって、QRコードを読みとりましょう。国語や算数のをもんだいにこたえながら学しゅうすることができます。	
④ 「わくわく算数2」のデジタルコンテンツ	
算数の教科書のデジタルコンテンツです。ひっ算のやり方やものさしのつかい方などのどうがを見たり、もんだいにこたえたりしながら学しゅうすることができます。	
⑤ 学びポケットの「イーボード」	
漢字や算数の学しゅうができます。どうがを見て、もんだいにこたえましょう。1年生の学しゅうのふくしゅうもすることができます。夏休みの間に、これまでの学しゅうをかんべきにしましょう。	

【家庭学習の課題例】

①の課題では、家庭に持ち帰ったミニトマトの成長を継続して記録させることができます。

また、②の課題では、日常生活の中から身の回りのかさの単位を探し、算数の学習と日常生活の関連を深め、算数を主体的に学ぶ態度を育成します。

③、④、⑤の課題では、自分のペースで自分の学びに合った学習をすることができます。特に⑤のアプリでは、下学年の問題で復習をすることもできます。児童は自分の進度に応じた学びをすることで家庭学習への意欲が高まり、主体的に学習を進めるようになっています。

「主体的な家庭での学び」「家庭と学校のつなぎ」に向けたICTの活用 ～上天草市立登立小学校～

タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習での活用が、児童の学習意欲につながっている。

登立小学校の児童は、家庭学習における1つの教材として、ドリルソフト等を活用しています。タブレット端末の持ち帰りの日には、端末に保存している国語、算数、社会、理科の4教科の教材の中から学習内容を選び、主体的に、自分のペースで取り組んでいます。採点機能を活用することで、理解状況をその場で確認したり、保存機能を活用することで、記録の積み重ねを振り返ったりすることができ、児童の達成感につながっています。

現在、コロナ感染や感染不安等による長期欠席児童に対して、タブレットを配付し、Teamsを使ったオンラインで授業に参加できるようにしています。

今後は、児童の取組に対する通信を利用した評価（赤ペンの返信、進捗状況に対するコメントなど）や、保存された記録の活用、見届けと定着に向けたフォローなどの取組を進めていく予定です。※上天草市では、すべての小中学校のタブレットにアプリ「ドリルパーク」をインストールしています。

また、朝の家庭からの連絡（体温等）では、連絡帳に代わる連絡手段として、ICTを活用しています。これまでの手作業から、ワンクリックによる一覧表への整理ができ、業務改革にもつながっています。

